

2026年度（第15期）

事業計画書

自 2026年4月1日

至 2027年3月31日

東京都千代田区神田錦町3 - 20 錦町トラッドスクエア6階

公益財団法人 読売日本交響楽団

2026年度事業計画

2026年3月16日

公益財団法人 読売日本交響楽団

(1)基本理念と運営方針

読売日本交響楽団は、クラシック音楽の振興・普及に尽力し、心豊かな人と幸福な社会の形成に貢献することを基本理念とする。昨今、経済環境が急速に変化する中で、財政基盤の安定を図り、同時に社会から愛され求められるオーケストラたるべく、「事業価値」と「芸術性」の向上を両立させる。さらに、幅広い世代、地域の人々とクラシック音楽の素晴らしさを共有することにも努める。

オーケストラ事業の文化的価値を維持しつつ、それを支える財務面、および人的基盤を強化して安定した運営に努める。

(2)2026年度の演奏活動

主催公演

4月に就任8年目に入る常任指揮者のセバスティアン・ヴァイグレとは、27年3月の特別演奏会でルディ・シュテファンの歌劇「最初の人類」（日本初演、演奏会形式）を取り上げ、これを年度の目玉に据える。23年度のアイスラー「ドイツ交響曲」、25年度のプフィッツナーのカンタータ「ドイツ精神について」に続き、20世紀初頭の二つの大戦間に埋もれたドイツ・オーストリア系のレパートリーを果敢に開拓して世に紹介する取り組みの一環。

読響との相性抜群の首席客演指揮者ユライ・ヴァルチュハは定期、名曲、土日、横浜の各シリーズに登場する。客演陣ではロト、アントニーニなどの名物指揮者のほか、ヴァイオリンのカプソン、チェロのガベッタ、フルートのパユら豪華なソリストの面々を迎える。

定期演奏会と名曲シリーズは例年、サントリーホールで10回ずつ開催しているが、27年3月から6か月間、同ホールが改修工事により閉館するため、26年度は各9回とする。27年3月は2つの主催公演の会場を東京芸術劇場（池袋）に移し、「特別演奏会」と銘打って開催する。

依頼公演

注目の高い公演として、5月に東京芸術劇場が主催する「山田和樹&東京芸術劇場 交響都市計画 水野修孝／『交響的変容』」が開催され、管弦楽を読響が担当する。世界で活躍する日本人指揮者の代表格と言える山田和樹は4月、東京芸術劇場の芸術監督（音楽部門）に就任する予定で、これが監督デビュー公演となる。

新規案件として、アフラックがサントリーホールで10月19日に行うチャリティコンサートに協力する。このコンサートは、同社が小児がんなどの病気と闘う子どもたちやその家族のために1999年から行っている。

社会貢献活動

アンサンブルを機動的に展開するサロン（地方都市での公開演奏）、ハートフル（医療施設向け）、フレンドシップ（小中学校向け）の各コンサート活動を通じて、より多くの人にクラシック音楽に触れる機会を提供する。

2026年度 事業計画一覧

I. 自主公演（国内） 59回

1. 定期演奏会	9回
2. 名曲シリーズ	9回
3. 土曜マチネーシリーズ	10回
4. 日曜マチネーシリーズ	10回
5. 横浜マチネーシリーズ	8回
6. 大阪定期演奏会	3回
7. 読響アンサンブル・シリーズ	4回
8. 特別演奏会	6回

(特別演奏会内訳)

首都圏特別	4回
第九公演	2回

II. 依頼公演 29回

1. 首都圏公演	17回
2. 地方公演	11回
3. テレビ出演	1回

I + II 合計 88回